

NO.3  
白夜の行動

原点斗争を頂点に

反安保斗争の革命的推進を！

アナキスト高校生協会

△政治斗争至上主義を突破し、反帝社会斗争へ▽  
斗うすべての高校生諸君！

六月安保斗争の真只中において、斗う高校生の運動は大きな岐路に立っている。高校生運動の第一の潮流は、日共II民青のスターリン主義（国家資本主義）の下における△平和と民主主義▽運動であるが、府高教組の五・三一告訴支持決議や、全共斗運動への敵対行為等でも明白なように、体制変革を斗うことも考えることもできない全くズブズブの改良主義運動であり、その基盤は現在の議会主義政党と共通のブルジョア民主主義である。それ故にかかる運動は紛砕対象であるのだが、その低劣さの故に最大多数派であることも事実なのだ。彼らを紛砕する闘いが不可欠であることは△自警団▽と対決しこれを解体しぬくにも当然のことである。

そして第二の潮流は、いわゆる反代々木系諸集団IIマルクス主義新左

翼諸派の左翼スターリン主義（毛沢東主義・トロッキズム・自称「反スタ」主義ETC）の下における武力奪権運動であるが、この運動が第一の潮流と異なるのは、その目的は自称「革命政府」の樹立による権力の奪取であり、成功のあかきには彼らセクト官僚は政府官僚になるといふわけであるが、かかる政治革命（政体変革）運動の帰結はやはり国家資本主義なのであるところに社会主義はない。彼らの手段は第一の潮流が議会であるのに対して暴力である。ただそれだけの違いにすぎない。

かかる二潮流の共通項、政治革命II奪権斗争の論理による政治斗争至上主義的傾向に断固反対しつつ登場してきたのが、我が革命的無党派とアナキストによる革命的反帝高校生運動という第三の潮流である。この潮流が発現してきた意図は極めてラジカルな革命的なものであるといつてよい。即ち、その基礎的視座は「鉄砲から政権が生れる」「革命の中心任務と最高の形態は武力による政治権力の奪取であり、戦争による問題の解決である」といったような、政治斗争至上主義とその延長としての武力斗争至上主義とから根底的に訣別して社会革命をめざした革命的反帝社会斗争の下に、原点斗争を頂点とした運動構造を形成・発現・展開させていくという視座である。

斗うすべての高校生諸君！

現代ジャコバン主義者IIクーデター主義者の潮流である現代の一切のマルクス主義者の運動の本質を透視し権力亡者集団から訣別して、革命的反帝高校生運動の潮流へ断固として合流せよ！  
さて、全ての斗う高校生諸君！

八派系マルクス主義諸セクトは、六・一二全関西集会↓六・一四中央

首都集会というスケジュール斗争を政治斗争至上主義の論理、かつ中央政治主義（中央集権主義）の論理によって打ち出しつつ、圧倒的なノンセクト部分を八派の連鎖につなぎとめようと計っている。かかる事態にともない、六・一四あるいは六・一五における関西あるいは大阪段階での集会は皆無となっている。この意味はあきらかに八派の「六月安保決戦」論を裏付けるものでありながら、理論的にはいずれの諸セクトも昨秋期斗争とは異って決戦の位置付けができず、又中核派Ⅱ反戦高協を先頭とする八派内行動右派は自称「前衛」にあるまじき大言壮語の果てにカンパニア行動へと日が近づくにつれて果しない戦術ダウンを繰り返している。その反戦高協の体質は八派内行動左派（ML派等）と比較するとき鮮明である。決戦行動左派はそれなりの決意と情熱の故に自己を直立させることができるのだが、反戦高協のオルグ方式とは酒とマージャンを下地に「東京見物ができるから行こう」と言うような雑兵集めでしかなく、その下劣さはハキケをもよおすばかりである。その上八派の野合ぶりは五・三〇セクト野合行動にも明白なように何一つ意義を表明することのできない代物となっている。

我々は八派内的な政治斗争がすでに昨秋期斗争ではっきりと破産したことを確認せねばならない。その根拠は八派の質とその政治運動構造では八自警団Ⅴの登場を粉碎、阻止することができなかったと言ふことなのである。このことに比べれば武力斗争上の諸問題は低水準にあり、政治力学主義の延長に軍事力学主義を設定する八派の問題意識は、彼らがクーパーを夢みるブランキストと同じ穴のムジナであることを自らバクロしているのである。かかる政治屋団体のありとあらゆる策動を突破し

大衆運動の自立を目指して、斗う全大阪高共斗部隊からセクト群団へと逃亡した諸分子への批判介入行動を共に貫徹しようではないか。

かくして我々は八自警団Ⅴに対決してこれを解体打倒しうる質を形成することのできる革命的反帝社会斗争を発現、展開して行かねばならない。八原点斗争を頂点に反帝社会斗争を発現、展開せよ！  
斗う全ての高校生諸君！

我々は個別原点斗争を第一義的な斗争として位置付けるが、個別原点斗争はそれが原点での斗いであるという即自的な意味で意義があるわけではなく、又これを個別原点での斗いであるが故に、自然発生性を超克することができないときめつけることもバカげた運動認識である。即ち我々の斗いは政治斗争（対政府斗争）を頂点として個別斗争を組織するのではなく、全く逆に個別原点斗争をこそ頂点として一切の斗争を組織しなければならぬのである。

要は個別原点においてこそ目的意識的な斗いが貫徹されねばならないということなのである。全共斗とはその内部において質の重層的結合を獲得しうる組織性（評議制）を保持し、それ故に大衆的基盤を構築しつつ高校解体をめざした自主管理斗争をになうことのできるものでなくてはならない。全共斗がセクトの策動によって政治動員組織へと歪曲された時、全共斗はその内実において崩壊したが、それは当然のことなのである。それは全共斗が自己の存在根拠そのものとの直接的対決を志向した運動であり、その本質は社会革命運動に連続していく社会Ⅱ原点斗争だからであり、しかもこの意義を明確に自覚したノンセクトが極めて少ないが故に、崩壊は当然のこととしてあったのである。

ノンセクトを称する大部分はセクト原理・方法論を乗りこえ、大衆運動の目的意識的構築とその自立を推し進めることができず、単にセクトの時々の方針に反発している一貫した自己主張の欠落したアンチ・セクトにすぎない。ノンセクトとはセクト結成をめざした未党派ではなく、断固として前衛革命方式を突破した無党派を意味するのである。アンチセクト（未党派）とノンセクト（無党派）との根底的な異質性を把握することが必要であり、かつ過去の全共斗運動がアンチセクトの水準であったが故に、セクトの策動によって崩壊せざるをえなかったことを自己批判的に総括しつつ、全共斗運動のノンセクトの水準での再構築が不可欠である。革命的無党派（ノンセクト・ラジカル）を軸とし、全共斗運動を頂点とする反帝社会斗争の水準において発現、展開されていくならばそれは六月反安保斗争を最も大衆的にかつ最も革命的に斗いぬくことが可能である。われわれは全共斗運動をマルクス・レーニン主義の運動としてしか考えることのできないアンチセクトの低脳児を乗り越え断固たるノンセクト運動の全共斗運動の革命的推進を、この六月反安保斗争を主体的に原点から斗いぬく中から獲得しなければならぬ。

闘うすべての高校生諸君！

原点斗争を頂点に一切の斗争を組織し、安保体制を根源的に解体する反帝社会斗争を形成発現しよう！

★セクトの分断工作を突破し、

全大阪高共斗の革命的再編を勝ち取ろう！

原点斗争を頂点に

全大阪高共斗・各地区高共斗の

革命的形成を！！

アナキスト高校生協会

△闘う全ての高校生諸君！▽

六月安保斗争を原点から形成してきた闘う全ての高校生諸君に、わがアナキスト高校生協会（A H A）からの連帯の表明と課題の提起を簡単に明らかにしておきたいと考える。

△四・二六一四・二八斗争から

五・三一斗争へ！！その意義と限界性▽

闘うすべての高校生諸君！

五・三一斗争を原点として四・二六一四・二八斗争をその起点としていかなる政治諸党派も形成することのなかった新たな質をもった革命的な反帝高校生運動が生起している。それは昨秋期斗争敗北の真剣な総括としての全共斗運動のアンチセクト（未党派）段階からノンセクト（無党派）段階への飛躍の不十分な表出形体ではあったが、その基底的な意義は各校全共斗そして各地区高共斗が弱小新左翼諸セクトの政治至上主義の限界を突破する独自の社会運動構造を形成し努めたところにある。

まず四・二六一四・二八斗争において各校全共斗の連合戦線は弱小諸セクトが昨秋期斗争の勝利総括者・敗北総括者にかかわらず、何一つ自己の欠陥を克服する努力をなしていないが故に、大衆運動に対する指導

性と称するものが、強圧的な大衆運動に対する敵対性でしかないことをバクロした。とりわけこのことに無自覚であったF I H（四トロ下部組織）とH F L（M L下部組織）は四・二八斗争において大衆的に排除され、合同で二九名のダンゴを作ったのであった。

勿論、四・二六に一五〇名、四・二八に二〇〇余名という量そのものは、依然として連合戦線それ自身が以前の活動家のみを集結した部隊でしかないことを物語っている。だがここに集合した戦士は、次の日から前よりも一層の情熱をもって個別原点斗争へと進路を定め、かつ原点斗争を頂点とした運動の構造を形成する方向へと斗争を主体的に構築しはじめたのである。

四・二六―四・二八斗争を起点とした革命的高校生運動の原点回帰とその展開は、この潮流を五・三一斗争において発現させたのである。革命的反帝高校生運動は五・三一において一五〇余名を集結し斗われた。その意義はセクト野合行動を根底的に乗り越えて、ようやく大衆運動そのものの目的意識的な形成が、大衆運動の自立へ向けて発現されたということである。けれどもその準備過程における不十分な諸点は次の段階において重大な問題をひきおこした。（次項）

最後にこの時期の意義と限界を要約しておくならば、第一の意義は大衆運動それ自体の目的意識的な形成が開始され全共斗運動がアンチセクト（未党派）からノンセクト（無党派）の水準へと移行、定着しはじめたこと。従って弱小諸セクトとの全面的対決への前段階的斗争が各所で火花を生じ、このことでますます大衆運動の自立が促進されてきたことである。

第二の意義は、弱小政治諸党派の政治斗争至上主義あるいはその延長としての武力斗争至上主義とから根底的に訣別した個別原点斗争を頂点とした社会革命へ向う反帝社会斗争が形成・発現されはじめたということである。

そして我々の限界とは、全共斗運動が特例的な場合を除いて、依然として大衆的結集軸を原点内部において十分には構築しえていないということである。それが諸セクトの浅薄な行動を今なお一定程度許容している基因になっていることも確認しておかねばならない。

八六・一二から八六・一五へ、弱小諸セクト解体のために、  
斗う全ての高校生諸君！

全共斗の連合戦線は六・一二斗争を集会参加ではなく集会介入として斗った。一〇〇余名の戦士たちは弱小諸セクトの首都総結集なる方針の無根拠をもつきだしつつ斗ったわけであるが、ここで極めて重大な策動がコンコンと行われたのである。

斗う全ての高校生諸君！  
F I HとH F Lのセクト馬鹿は、こともあろうに泉尾全共斗の連合戦線参加を「反戦高協だからだめだ」といって、全く全員の知らぬまに排除するというセクト主義に基づく分裂策動を行ったのである。反戦高協だからダメなのであれば、F I HはF I Hだからダメであり、H F LはH F Lだからダメになるのだということをハッキリとわれわれは断言しておく。しかも泉尾全共斗は決して反戦高協ではなく、反戦高協は泉尾高にわずかに二、三名いるにすぎないのである。たまたま白ヘルであったが故にかかる事態が発生し、そしてF I HとH F Lのあいもかわらぬ低

能児としての本質が露呈されたのである。かかる陰謀は分裂策動であると共に、わが前進する革命的反帝高校生運動そして全共斗の連合戦線という大衆運動に対する敵対行為である。

闘う全ての同志諸君！

白ヘルは全て反戦高協なのだと単細胞的に思いこみ泉尾全共斗を陰にかくれて排除したF I H・H F Lの馬鹿者に対し公然と大衆的に自己批判を要求せよ！

彼らが自己批判せぬ場合は、全く正当にも彼らがF I H・H F Lであるという理由においても、公然とかつ大衆的に連合戦線に対する破壊策動として戦列から放逐せよ！その結果、彼らが二ヶタにも及ばないセンベイをこしらえようとも、それは今のところ我々の問題外である。

ところで闘う全ての同志諸君！

六・一二斗争において次の事実があったことを告知しておく。阪外大と阪学大の全共斗連合部隊一〇〇名の前にF I Hの旗があったのだ。今やF I Hは旗だけの存在になりさがったのである。と同時に我々は我が連合戦線部隊の前に門真地区反戦青年委員会の旗があったことも見逃してはならない。これはH F Lの者によって持ちこまれたのであるが、このことは門真反戦なるものがすでに一名の労働者もいない旗だけの存在になっていることを意味しており、われわれは彼らに対し旗をまくことをおすすめる。彼らがそれを拒否するならば、反戦は反戦らしく反戦の連合部隊へ行くようおすすめしかつ実力でも排除するだろう。

闘う全ての高校生諸君！

全共斗運動の更なる前進を形成していく過程で明らかに弱小諸セクトが

全共斗の阻害物になりつつあることをこの間の斗争でわれわれは積極的  
にバクロ批判してきた。われわれの危惧は残念ながら除々に真実である  
ことを明らかにしつつある。

闘う全ての高校生諸君！

あらゆるセクトの分断を粉碎し、全共斗の連合戦線を拡大強化せよ！

△原点斗争を頂点とした反帝社会斗争を▽

闘う全ての高校生諸君！

六・一五斗争以降の一週間を個別あるいは地区の原点斗争を主体的に  
形成しつつ六・二三個別原点斗争を断固として発現・展開しぬくために  
日夜の圧倒的エネルギーをそそぎこみ、自己変革と社会変革を原点斗争  
を頂点として、幾多の重層的反帝社会斗争を貫徹することにおいて獲得  
していかねばならない。

★六・二三同時多発原点斗争勝利！

★六・二二地区原点IIダイキン軍需生産阻止斗争勝利！

★安保II日米共同声明路線粉碎！

★日本帝国主義打倒！

★全国労農自治評議会樹立！

☆反権力・絶対自由 反帝・反マル・無政府共産！

(六・一五)

## 高共斗運動を反帝社会斗争へ

### 原点斗争を革命的に推進せよ！

アナキスト高校生協会

△マルクス主義諸党派を突破せよ！▽

斗うすべての高校生諸君！

六月反安保斗争を断固として学園原点斗争を頂点として斗ってきた革命的な高校生諸君！

我々は何に支配され抑圧され続けているのか。支配と抑圧の根源は権力であるが、この権力は諸個人の関係性の総和である社会の構成軸である。権力の本質を暴力であるとしたレーニンの見解は根底的な誤謬を犯している。暴力は権力の一形態であるにすぎず、それは機能ではあっても本質ではない。現代社会が権力的人間関係の総和として国家制社会を構成していることを把握し、かかる国家制社会を根底から解体し、コミュニケーション的社会へ再編成することが我々の課題である。

それを我々は△国家制社会を解体し、評議制社会を樹立せよ！▽という戦略スローガンとして提起する。

斗うすべての高校生諸君！

マルクス主義諸党派の根本的欠陥とは何か。それはマルクス主義が権力を構造的に解体するのではなく、現存国家と共通の基盤に立脚して単に権力を奪取することを目的としているところにある。かかる発想からするマルクス主義諸党派とりわけ八派は、中央権力斗争とか軍事を頂点とす

る斗争とかを空語的に連発するのであるが、その破産はすでに昨秋期斗争で明確になった。

この破産を政治斗争至上主義（政治力学主義）の延長として武力斗争至上主義（軍事力学主義）的のりきらんとしている諸党派は、今やますますその権力主義の本質を露呈しつつ崩壊状態に突入している。

斗うすべての高校生諸君！

今やマルクス主義的運動構造を突破した、社会革命をめざした革命的反帝社会斗争を軸とした、新たな質の運動構造を形成しつつ発現していかねばならない。

△高共斗運動を革命的に推進せよ！▽

斗うすべての高校生諸君！

昨年までの高共斗運動は何故に崩壊したのか。あるいは崩壊せざるを得なかったのか。それは状況的によりもはるかに主体的に総括されねばならない。高共斗運動の質的未成熟の内実は、大状況的政治過程の観念的把握とその下における素朴な（街頭行動主義的）対応としてあった。それ故に学園斗争を担わずに街頭へ単に免罪符を得るようになっていった部分Ⅱ高校レベル連は、百年一日のごとく全く質的發展がみられない。更に学園斗争をにないつつ政治状況へ対応していった部分Ⅱ八派系も又、学園内部での革命斗争を貫徹することができず、ほぼ全面的に政治斗争に追随した斗争のはてに、高共斗を八派系政治動員組織へと墮落腐敗させることにおいて主役となった。

この主役は現在すでに極小党派へと没落し、脇役の位置さえも保持できなくなりつつある。

そして最後にかかるベ平連と、あるいは八派系運動に大いなる疑問をいだきつつも未だアシチセクト（未党派）にとどまった部分は、学園内革命斗争の第一義性を確信しつつも、それを運動論としても又現実の運動構造としてもほとんど形成し発現することができなかった。

けれどもこの潮流の中から情念としてのアナキズム、そしてより理念としてのアナキズムを志向し、運動構造として獲得しはじめた部分II A H Aがついに七〇年春、結成され活動を開始したことによって、高共斗運動はその質的転位を革命的に推進しはじめたのである。

闘うすべての高校生諸君！

とりわけ八派系的ベ平連的運動構造に公然と異議をとなえはじめたノン

セクト（無党派）諸君！

今や明確にマルクス主義の前衛（党）革命方式と根底的に訣別し、社会革命へ向けた反帝社会斗争を、高校解体をめざした自主管理斗争として断固貫徹しぬくために、学園原点斗争を頂点とした運動構造を、一切のセクトの分断工作を突破して高共斗の連合戦線を強化し拡大する中から高共斗運動の革命的自立として獲得していかねばならない。

ところで反戦高協はこの間一貫してセクト群団をもって登場し、革命的反帝高校生運動を形成しつつある高共斗の連合戦線に敵対してきた。

しかもその内実たるや語るべきなものもない無内容なものである。かかるセクトの分断工作は、単に反戦高協のみならず「叛斗委」を称するブントも又同様の分裂策動を尼高連に対して行ってきたし、その他の諸セクトも又同様の下心をもっていることは明らかである。ただ全高斗連や反帝高戦E.T.Cは、現実に極小党派であるが故に時には高共斗の連合

戦線へ入ったり、たまにはベ平連へ没入するといったことをまさに便乗的に行っているにすぎないのである。最近では我々の方針に歯が立たないかと判断したのか、プロ軍、全高斗連その他の極小党派はわれわれの方針に追隨してきているのである。

闘うすべての高校生諸君！

断固として六・二三原点斗争を貫徹して結集した同志！高共斗運動の更なる革命的深化の中軸として自らを武装せしめるためにも、アナキスト高校生協会に結集せよ！われわれの戦場は前人未踏の荒野である。

△原点斗争を頂点に地区高共斗を形成強化せよ！▽

闘うすべての高校生諸君！

われわれは高共斗運動において当面の具体的方針を提起しておく。

第一に学園内斗争の諸実体を、任意のサークル・クラス等の基本的行動単位を基礎に、それらの連合として全学高共斗を、生徒会を代行するものとしてではなく、自治的なもの評議制組織構造のものとして、形成・確立すること。勿論、諸セクトの支部（ベ平連を含めて）は公然たる批判の中において解体しぬくことが追求されねばならない。

第二に、地区高共斗を単に学園斗争の相互支援というためばかりではなく、われわれの日常生活意識の半面を構成している地域社会内での、公害あるいは軍事拠点等々に対する反帝社会斗争を主体的に推進していく機関として形成、確立していかねばならない。地区高共斗の結合をぬきに、労学との地区共斗はありえない。

そして第三に、各府県段階での政治状況―社会状況に対決していく斗争の推進機関として、各校高共斗の連合として実行委員会をつみあげつつ

連絡会議を早期に、しかしながら内実を築きあげつつ、形成していかねばならない。われわれは全大阪（全兵庫）高共斗を、地区高共斗の連合としてではなく、全学高共斗の直接的府県段階における評議会として考へる。全学高共斗を基礎にしつつ、地区高共斗・府県高共斗はそれぞれ独自の水準において自立して活動をになうものでなくてはならない。セクトの中央集権主義⇨代議制主義⇨代行主義⇨官僚主義を、根底的に突破した運動構造が今われわれには必要なのである。

闘うすべての同志諸君！

原点斗争を頂点に反帝社会斗争を創出しつつ、地区高共斗を強化拡大して、更なる飛躍を準備しよう！

われわれの原則スローガン

反帝・反マル・無政府共産 反権力・絶対自由

われわれの斗争スローガン

- 1 安保⇨日米共同声明路線粉碎！
- 2 日帝打倒！ 全国労農自治評議会樹立！
- 3 日帝侵略軍事網⇨治安弾圧体制解体！
- 4 米軍事基地撤去！ 軍需生産阻止！
- 5 自衛隊解体！ 機動隊解体！
- 6 産教共同体制粉砕！

文部省高校管理体制の帝国主義的改編粉砕！

個別学園管理⇨不当弾圧体系解体！

高校教育の細分化（⇨差別化）体制粉砕

四八年中教審指導要領粉砕！

高校解体をめざした自主管理斗争勝利！

4 佐藤自民党政府打倒！ ブルジョア民主主義立法・司法体系解体！ 日帝万国博粉砕！

5 米民⇨屋良政府打倒斗争連帯！

沖繩労農自治評議会樹立斗争連帯！

米軍事基地撤去！ 自衛隊沖繩進駐阻止！

6 セクトの分断工作を粉碎し、地区高共斗の形成から全大阪（全兵庫）高共斗の革命的再編をかちとるぞ！

（六・二三）